

BRC Top

お知らせ

ご挨拶

事業の概要

技術研修

組織図

各室概要

公開情報

リソース検討委員会

個人情報保護

採用情報 

アクセス

リソース検索

利用方法

提供申込み

寄託申込み

提供手数料

支払方法

総合カタログ

利用者登録

メールニュース

関連リンク

お問い合わせ先

## 公開情報

### 疾患モデル評価研究開発チーム

野田 哲生 チームリーダー

#### 1. 設定した目標の妥当性

##### 1) BRCで実施する意義があるか

“世界最高水準のバイオリソースの整備”というセンターの目標に合致しているか？

パワフルな開発系を用いて、先端的な解析技術、情報付加によるリソースの付加価値向上を目標としており、センター全体の目標に合致している。設定している目標が高いので、理研所内を含め共同研究の推進が望まれる。

BRCの目標達成に貢献する“道筋”は明確か？

先進的な研究でBRCに貢献する道筋が明らかになっている。特に、がんを「操作する」という目標は明確である。殊に転移抑制に集中することが重要。

##### 2) 5年間で達成可能な目標か？

おおむね達成可能と考えられる。難聴projectは直接的で分かりやすい。しかし一部のプロジェクトでは、対象を絞っていくことも大事かと思われる。

##### 3) 国際的な視野に立った目標か？（国際的なリーダーシップにつながる目標か？）

強い基盤があり、リーダーシップに繋がる目標であると考えられる。

#### 2. 目標達成のための計画の妥当性

##### 1) 目標達成に向けての具体的な計画であるのか？

3種類の計画について具体性は十分と受けとれる。

##### 2) センターとして優先度の高い、必須な計画か？

ENUマウスの利用に立脚するなど優先度は高いと考えられる。

個別研究としては優れており、センターの学術的地位を高められる。

3) 独創性の高い計画か？（単なる後追いではないか？）

独創的である。特に発がんモデル、生活習慣病モデルの開発は評価できる。しかし、メタボローム、NMD阻害による疾患研究の目標はやや不明確である。

4) 研究資源（予算・人員）範囲内で実現可能な計画か？

大きな計画であり、実現するためには、理研内部の予算の確保や、新たな外部資金に獲得が必要と考えられる。

5) 計画を実施するために必要な経験、実績を有しているか？

従来の実績から十分な経験を持っている。大きな計画であるため計画をある程度集中していくことも検討してはどうか。

### 3. その他

サテライトの構築の推進が必須である。

BRC内の他のグループとの連携、臨床系を中心とした他研究機関との関連を強めてほしい。

iTRAQによるスクリーニングがどの程度可能か。発現量の少ないタンパク質にとって有効なのか。

